

「(様式第4号)

## 上田城南地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田城南地域協議会
2 日時	令和2年11月19日 午前10時00分から午前11時45分まで
3 会場	城南公民館 1階 大ホール
4 出席者	相田委員、江藤委員、小野澤委員、櫻井委員、竹内委員、龍野委員、田中委員、原田委員、増澤委員、松田委員、宮坂委員、宮澤委員、安江委員、柳澤委員、山岸委員、若林委員、渡邊規夫委員、渡辺里香委員
5 市側出席者	【事務局】村山城南地域振興政策幹、内藤地域内分権推進担当係長、西澤地域内分権推進担当主査、片山地域内分権推進担当主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和2年11月19日

### 協議事項等

次第

- 1 開会
- 2 会長よりあいさつ
- 3 協議

(1)城南地域の課題について

部会「防災」「高齢者福祉」「産業振興」

(会長)今後のおおまかなスケジュールは下記を予定している。

令和3年2～3月 各部会の審議計画報告

7月 中間報告

12月 提言(案)最終報告

令和4年 1月 市長への提言書手交

前回欠席委員より、所属部会の移籍希望があり、交代が承認された。

(2)その他

#### 【各部会協議】

##### ○防災部会

今後の方向性を決めるに先立ち、思っていることを出し合った。

以下、委員からの主な意見

- ・この地域は市、住民ともに自然災害が少ないとの認識が強かったが、今年の台風19号で避難所開設、情報伝達など自然災害発生時の様々な課題が実際に浮上した。
- ・市が作成した防災対応マニュアルは、ボリュームが多い一方、具体的な記載が乏しいため緊急即応には不適。
- ・市から自治会長への緊急連絡はSNSを用いた一斉伝達の仕組みができた。活用には十分な事前練習が必要。
- ・今年の災害時、避難所へ行ったが既にあふれかえていたので、次へ、次へと回った末に避難をあきらめた人もいた。

避難所の状況がリアルタイムで配信されるシステムがあれば円滑な避難行動が可能になる。

- ・要援護者登録制度は多くの自治会で取り入れているが、援護を受けたい側の要望は多様、援助する側は責任が重いとして協力をためらうケースが多い。
- ・災害時には、まず自分や家族の命を守ることが優先といったシンプルな意識でよいのではないか。
- ・個人で行うこと、地域でできること、市などへ要望していくことなど見直すことが必要。

#### ○高齢者福祉部会

部会長作成の資料を基に意見交換をし、今後の方向性を決める協議をした。

以下、委員からの主な意見

- ・すそ野を広げて提言しても漠然とした回答しか得られない。一つに絞って調査研究をしたらどうか。
- ・生活支援について深く掘り下げたらどうか。
- ・老人会の加入促進や活動支援をしたらどうか。
- ・自治会を超えて活動・参加できる仕組み、交通手段が必要ではないか。
- ・まず、自治会の中に参加できる場所が必要なのではないか。
- ・今ある活動(サロンや地域リハなど)について PR が不足していないか、回数を増やせないのか。
- ・市からの補助金はどの様なものがあるのか(会の設立、講師謝金など)。
- ・継続することが大切ではないか。

#### ○産業振興部会

今後の方向性を決めるに先立ち、思っていることを出し合った。

以下、委員からの主な意見

- ・地元にながら、地域の店舗を知らない。知れば、利用につながるのではないか。まずは地域の実態を知ることが大事である。
- ・身近で安心できる店舗があれば利用したい。そういった店舗に関する情報を取得できる仕組みがあればよい。
- ・SNS などインターネットを活用して、地域の店舗に関する情報を住民に発信できる仕組みができればよい。
- ・商工振興会は祭りを開催している。インターネットだけではなく、祭りなどのイベントを通じた情報発信も重要である。
- ・地域の店舗に関する情報を自治会回覧で知らせるのはどうか。また、地域の店舗をスポンサーにして、回覧板を作成することもよいのではないか。
- ・住民の意識調査を行い、その情報を共有し、活用することが重要である。

#### 4 その他

次回の開催予定

日時 12月17日(木) 午前10時から

場所 城南公民館 大ホール

#### 5 閉会